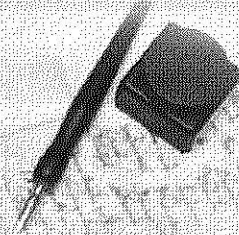


校長のひとり言



「あなたを採用したい」

ほとんどの人が将来はどこかに就職することになると思います。

業種は違いますが、事業主の方々や採用担当者の皆さんは、どこも同じ趣旨のことをお話しされます。企業が欲しがめる人は……？ 結論は、これからの企業（日本）は、自ら考え、提案し、行動できる能力を持った人材が欲しいのです。

高校生の皆さんに今できること。やっておくべきことはなんでしょうか。

それは、第一に基本的な生活習慣の確立です。

①挨拶をきちんとする。

挨拶のできない人は採用されません。「挨拶くらいは、いつだってできる。」と考えている人は甘い。練習せずして成果なし。

②時間を守る。(遅刻、欠席をしない。)

社会は時間を資源と考え、大切にしています。時間を守れない人は信頼されません。

③掃除で頭を使う。

自室を掃除する際には、「自ら考え、行動する力」が培われています。掃除前の現状認識、どのようにきれいにするかの方法選択、さらにきれいにする場所はないかと考える感動の演出力。掃除する意義・意図には深いものがあります。

④自己管理能力

自分の持ち物の管理ができていますか。必要な時に必要なものが無いでは許されません。

⑤公共物を大切に扱う。

トイレでトイレットペーパーが散乱していたらどんな気持ちになりますか。

⑥決まりを守る。

決まりを守ることは自分を律することです。必要なものは精神的な強さです。

⑦言葉遣いに気を配る。

就職や上級学校の受験のために面接指導を行います。正しい言葉遣いができていません。前途多難です。日頃から敬語を使う練習が必要です。年上の方々と会話し身に着けよう。

⑧自分の役割を果たす。

重責を担う = 信頼の証

与えられた役割を果たし、さらに良い成果を求めて取り組むことが重要です。

ここまでの内容は、どこかで（CCP、担任、家族等から）聞いたことばかりです。珍しいことは何一つありません。意識しなくてもできるようになれば本物です。どこへ出て大丈夫です。

第二は、基礎学力の定着です。

社会で必要なのは、基本的な生活習慣の確立だけではないのです。社会で活用できる知識や知恵も必要なのです。そして、その基礎となるものが学力です。通信制課程の学習基本は「自学・自習」です。しっかりと計画を立て、じっくり取り組む。「焦らず、休まず、諦めず」を念頭に根気強く進めていこう。定時制課程の生徒は、毎日の登校学習が基本なので、休まず登校することが第一です。授業に必要なものを準備し、日々の授業に臨むことが最も大切なのです。

基本的な生活習慣の確立については、すでにアルバイト等を経験した人は、その重要性を十分に理解し認識していることと思います。（正規社員とアルバイト職員は、責任や与えられるものが、全くちがう）しっかりと社会の中で学んで欲しいのですが、高校生としての立場の優先順位は、あくまでも学校へ出かけるスクーリング（レポート提出）や日々の授業に出席し多くの知識を修得することです。宍道高校に入学した目的を振り返ってみよう。

大学入試センター試験

10月16日に（独）大学入試センターが報道発表しました。内容は、平成27年度大学入試センター試験出願数が、559,156人となったとのことでした。そもそも、大学入試センター試験（以下センター試験）は、どんな目的で実施されるのだろうか。センター試験は、大学に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とされており、国公立私立の大学が、それぞれの判断と創意工夫に基づき、適切に利用することにより、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定することに資するために実施されています。

すでに大学受験に臨んだ生徒います。大学受験方法はセンター試験利用の他にいくつかありますが、多くの生徒がセンター試験を受験し、二次試験に向かいます。宍道高校生も休日に模試を受験し、自分の学力をチェックしていますが、1月17日・18日の本番まで2ヶ月を切りました。最後まで粘り強く取り組んだ受験生に幸多かれと願っています。

0.0001点の差

8月27日付けの某新聞社のコラム欄に、「東京大学の入試では、0.0001点の差で運命が分かれることがある」とあった。

内容は、大学入試センター試験の成績を圧縮して二次試験と合計するから、小数点以下の世界に当落すれすれの秀才英才がひしめくのだ。ちなみに今春の文科1類（前期日程）合格最低点は332.7444点である。

ということは、332.7443点の受験生は涙をのんだことになる。そこには究極の公平さがあるが、人間の能力をみるモノサシとしてはいささか安易だろう。

ペーパーテストの成績は生徒の能力の大きな指標であるが、決してそれがすべてではない。されど、点数なるものへの世の中の意識はなかなかしぶといものがある。全国学力テストの正答率はA校よりB校が0.0001点リードなどという話が出てこなければいいかと締めくくっていた。

宍道高校生も9月から解禁となった就職試験や10月～11月に多く実施される推薦入試等を利用した大学等の受験に挑戦している。客観的な数字による公平な合否判定に一喜一憂する差が何点だろう。また、その差はどこにあるのだろうかと知りたくなる。今は、校長室から「期待しているぞ。宍道高校生。」と激励するばかりである。